

令和6年度 鹿角市立尾去沢小学校 学校評価書

＜参考表示＞

目標	市の施策の基本方向	評価指標（学校の実践課題）	自己評価 中間	外部評価 中間	自己評価 年度末	外部評価 年度末	市の施策の柱
確かに学力と高い志を育てる教育の充実	基本方向 1 自己実現のために必要な確かな学力の定着を図ります。	主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善 基本的学習習慣の形成と基礎学力の定着 読解力育成のための読書活動の推進	3	3	3	3	①なぜ学ぶのかを明確にした主体的・対話的で深い学びの実現 ②望ましい学習集団の育成による児童生徒の学力向上対策 ③読書活動の推進と読解力の育成
	基本方向 2 自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材を育てます。	キャリア諸能力の育成のための体験的活動の充実 ふるさとのよさに気付き愛着心を醸成する活動の充実 ふるさとを支える気概の育成	3	4	4	4	①社会的・職業的自立を目指した教育活動の推進 ②ふるさとへの理解を深める体験的な活動の推進 ③鹿角市の未来を支え盛り上げる人材の育成
	基本方向 3 情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材を育てます。	1人1台端末を活用したGIGAスクール構想の推進と情報モラルの育成 外国語教育・国際理解教育の充実 学んだことを発信する能力の育成	3	3	3	3	①ICTを活用した情報活用能力と情報モラルの育成 ②グローバル化に対応する能力の育成 ③他地域との交流によるコミュニケーション能力と発信力の育成
豊かな心と健やかな体を育み、将来的の自立を支える教育	基本方向 4 豊かな心を育みます。	自己有用感と主体性を育む集団づくりの推進 思いやりの心を育む道徳的実践の場の設定 様々な人たちとの交流を通じた自他を大切にする心の育成	3	4	4	4	①自己有用感と主体性を育む学習集団の育成 ②規範意識や思いやりなどを育成する道徳教育の充実 ③共生社会の形成に向けた人権教育の推進
	基本方向 5 健やかな体を育みます。	よりよい生活習慣の定着 望ましい食習慣の形成 継続的な体力つくりの実践による体力の向上	3	3	3	3	①規則正しい生活習慣の確立 ②食育の推進 ③体育授業及び運動部活動の充実と体力の向上
	基本方向 6 子ども一人一人に応じた、きめ細かな教育を推進します。	特別支援教育の充実 園・小・中の円滑な接続につながる効果的な連携 不登校、問題行動等の未然防止のための取組と対応	3	4	4	4	①特別支援教育の充実 ②就学前相談の充実と小・中学校との円滑な接続 ③不登校児童生徒の居場所づくりと学校復帰に向けた支援の充実
学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教	基本方向 7 子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場をつくります。	校舎・校地の日常的な点検・整備等による安全・安心な環境づくり 通学の安全対策 各種避難訓練の計画的実施と安全計画（危機管理マニュアル）の改善と活用	3	4	4	4	①安全・安心・良質な学校環境づくりの推進 ②通学の安全対策 ③学校の危機管理対策
	基本方向 8 教職員のモチベーションと資質の向上を図ります。	教職員の校内外研修の充実 人事評価制度を活用した各キャリアに応じた研修の充実 業務改善計画による教職員の働き方改革の推進	3	3	3	3	①教職員研修の充実 ②人事評価制度とキャリアアップ研修の充実 ③教職員の働き方改革の推進
	基本方向 9 地域とともに特色ある学校づくりの推進に努めます。	学校運営協議会・学校評価・学校の説明機会の充実 地域人材やボランティア、地域素材の積極的な活用 特色ある学校経営の推進と評価	3	4	4	4	①学校運営協議会を核としたコミュニティ・スクールの推進 ②地域学校協働推進事業による学校の活性化 ③学校の創意工夫による特色ある学校経営の推進

外部評価の評価基準	
5	きわめて良好
4	良好
3	おおむね良好
2	やや不十分
1	努力を要する

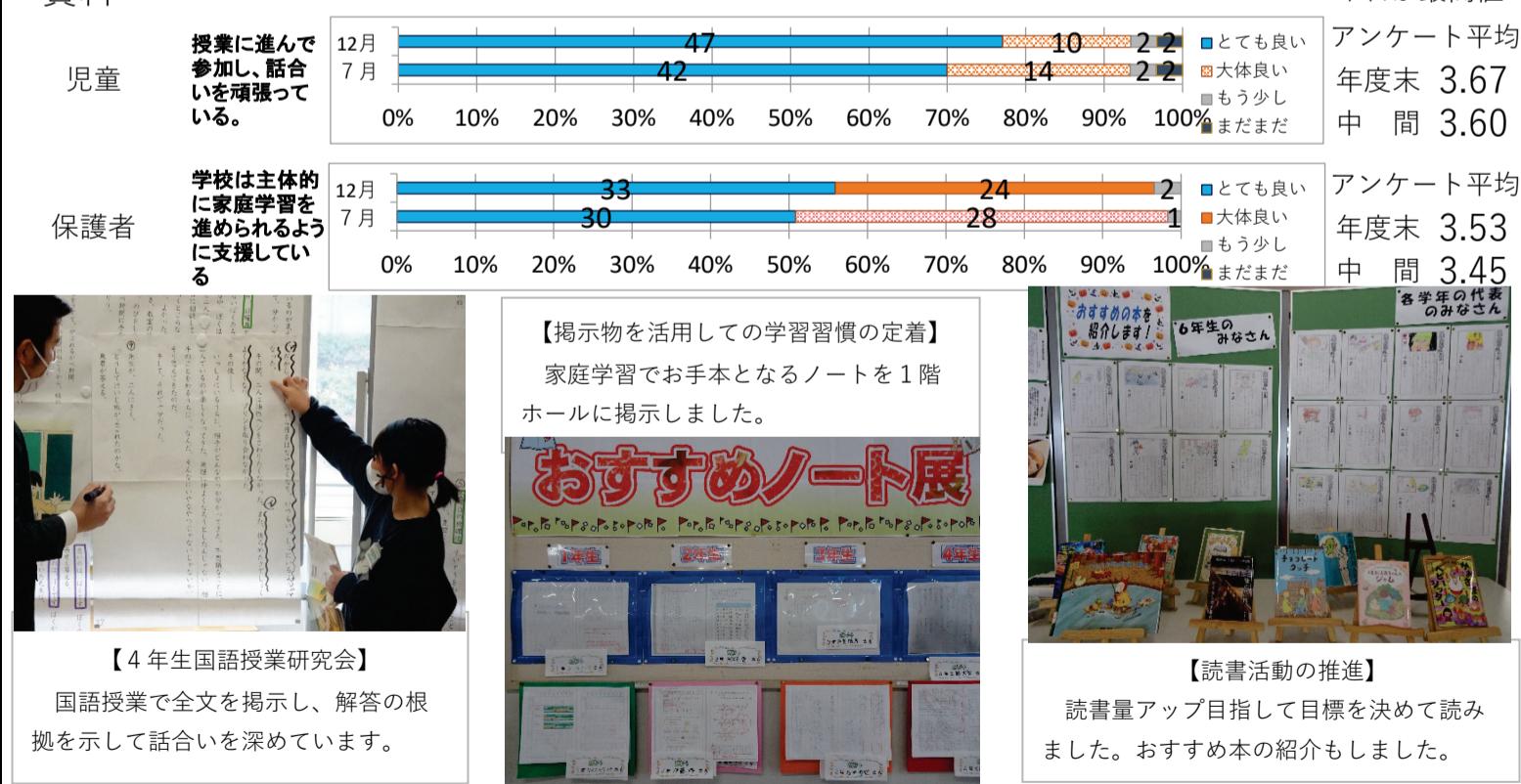
自己評価の評価基準		
5	実現状況は極めてよい	達成率90%以上
4	実施状況は良好である	達成率80~90%
3	実施状況はおおむね良好である	達成率60~79%
2	実施状況はやや不十分である	達成率50~59%
1	実現状況は不十分で努力を要する	達成率49%以下

基本方向1 「自己実現のために必要な確かな学力の定着」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	R5県学習状況調査の結果から国語の「読むこと」の領域において読解力不足により回答までたどり着けない子どもがいる。基本的学習習慣を身に付け、授業改善と日常的に読書に親しむ活動が重要である。	中間	3	中間	3	上級生が下級生に読み聞かせをしたり、毎週たっぷり読書の日を設定したりしていることが、読書好きな子どもの育成につながっている。読んだ感想を提出させる取組があるとより効果が表れるのではないか。
年度末	授業において対話をもとに自分の考えを深めていく学習が身に付いてきた。R6の県学習状況調査では4・5年生の国語が県通過率より10%以上上回った。本の紹介活動やたっぷり読書等で読書に親しんでいる。	年度末	3	年度末	3	友達の取組や頑張りが紹介される「お手本ノート」があり、その手本から学べることがいい支援である。携帯やタブレットで調べればいいという時代であるが、読書活動や辞書を使って学習する「あおぞらぶっく号」の日とたっぷり読書の日にどんな本を読むのか学級担任がチェック・指導できるようにしていく。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 今年度は研究教科を「国語」に焦点化し、授業改善を進めていく上で課題となる読解力の向上を目指す。前期は研究の重点を基に実践を積んだ。しかし、授業を見合って先生方で共有し合う時間をとらなかったので2学期以降進めていく。また、客観的な成果を見るために、9・2月に児童アンケートを行い、研究の検証をしていく。学習習慣の形成では、家庭学習や姿勢の手本となるものを掲示することで意識化され、効果があった。読書においては、図書委員会による放送などが意欲付けにつながっている。今後はあおぞらぶっく号の日とたっぷり読書の日にどんな本を読むのか学級担任がチェック・指導できるようにしていく。 【年度末評価】 4年生の国語の研究授業や授業を見合う会を行い、授業改善に向けて研修を深めた。国語の授業では叙述を根拠にして、自分の考えをもちそれを対話で深めていくように実践を積んだ。児童アンケートは12月のみ実施した。今年度の児童の実態をつかむことはできたが、実践による効果については検証できなかったので、来年度の校内研究で比較対照し、成果と課題を明らかにしたい。読書においては、学びプロジェクトの取組により委員会活動も取り入れながら児童主体になるよう、読書推進が図られた。児童の意識からも読書に親しめたことが分かる。家庭学習の充実については、1階ホールにノート学習の「お手本ノート」を掲示した。見た児童も参考になるし、掲示された児童も励みになっているので今後も更新を確実に行っていく。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 「研究の重点」に基づく授業研究と実践 研究授業による仮説の検証 日常授業への研究成果の還元
基本的学習習慣の形成と基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 掲示物を活用しての学習習慣の定着 家庭学習の充実 朝学習、月例テスト、個別指導による基礎学力の定着
読解力育成のための読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 昼読書や読み聞かせ、家庭学習読書の日、移動図書館との連携など読書活動の充実 読書の広がりをねらった学年おすすめの本の設定

<資料>

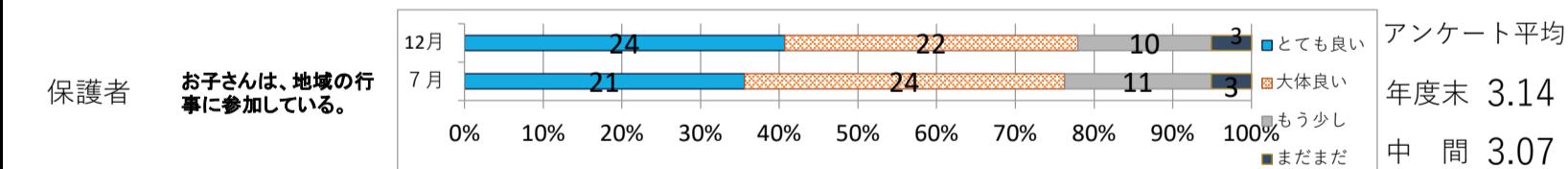
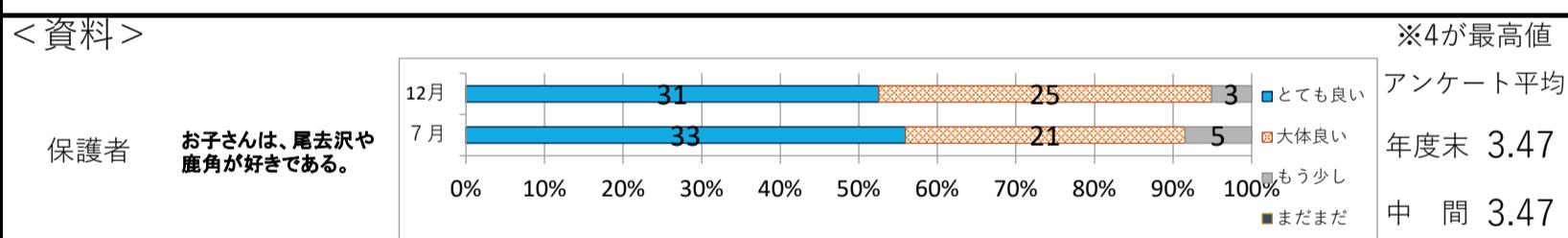


基本方向 2 「自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	児童は地域の方と触れ合ったり地域行事に参加することを楽しみにしている。地域への愛着も高く地域学習が根付いている。	中間	3	中間	4	市民センターや中学校との連携、他校との交流がうまく行われている。市民センターも子どもの数が減る中でできるだけ世代間交流をしていくので、活動を通じて地域を好きになってほしい。
年度末	地域とのかかわりを深めるために地域行事に積極的に参加したり地域の伝統文化を学んだりしている。児童のアンケートからも尾去沢が好きな子の割合が高い。	年度末	4	年度末	4	尾去沢市民センター主催事業の冬のレクリエーションへの参加者が増えた。地域の方々との交流を通して、子どもたちの地域に対する思いが強くなっているように思う。児童数が少ない中で行事への参加が積極的に行われている。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】児童アンケートでは「尾去沢や鹿角が好きである」の質問に対して平均3.77であったのに対し、保護者は3.47で開きがあった。学年通信に写真や感想を掲載したり、各活動の終了日の宿題として、お家の人へ頑張ったことなどを伝えることを宿題とするなどして工夫する。地域行事への参加について、保護者アンケートでは数値が低かった。参加したくても自治会として参加していないところもあるためだと感じる。尾去沢市民センターとも多くの子どもたちが参加できる配慮ができるかどうか協議を進めていく。</p> <p>【年度末評価】ふるさとかづの絆プランでは、大湯小との交流が充実していた。校内では少人数での活動が多いことから、今後も他校や地域での交流場面を設定することで積極性やコミュニケーション能力の向上を図っていく。以上のような取組に加え、尾去沢市民センターでも個人で参加できる地域行事を開催したものの保護者アンケートで「尾去沢や鹿角が好きである」の質問に対しての平均が3.47で前期と同じであった。学校からの周知や奨励をこれからも継続していく。</p>					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
キャリア諸能力の育成のための体験的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 育成するキャリア能力を明確にした体験活動の計画と実施
ふるさとのよさに気付き愛着心を醸成する活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「かなやまソーラン」、「からめ節」、「刻の翼」等伝統の継承、ボランティア活動の実施
ふるさとを支える気概の育成	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事（山神社祭、市民運動会等）への参加 ふるさとかづの絆プランの実施

<資料>



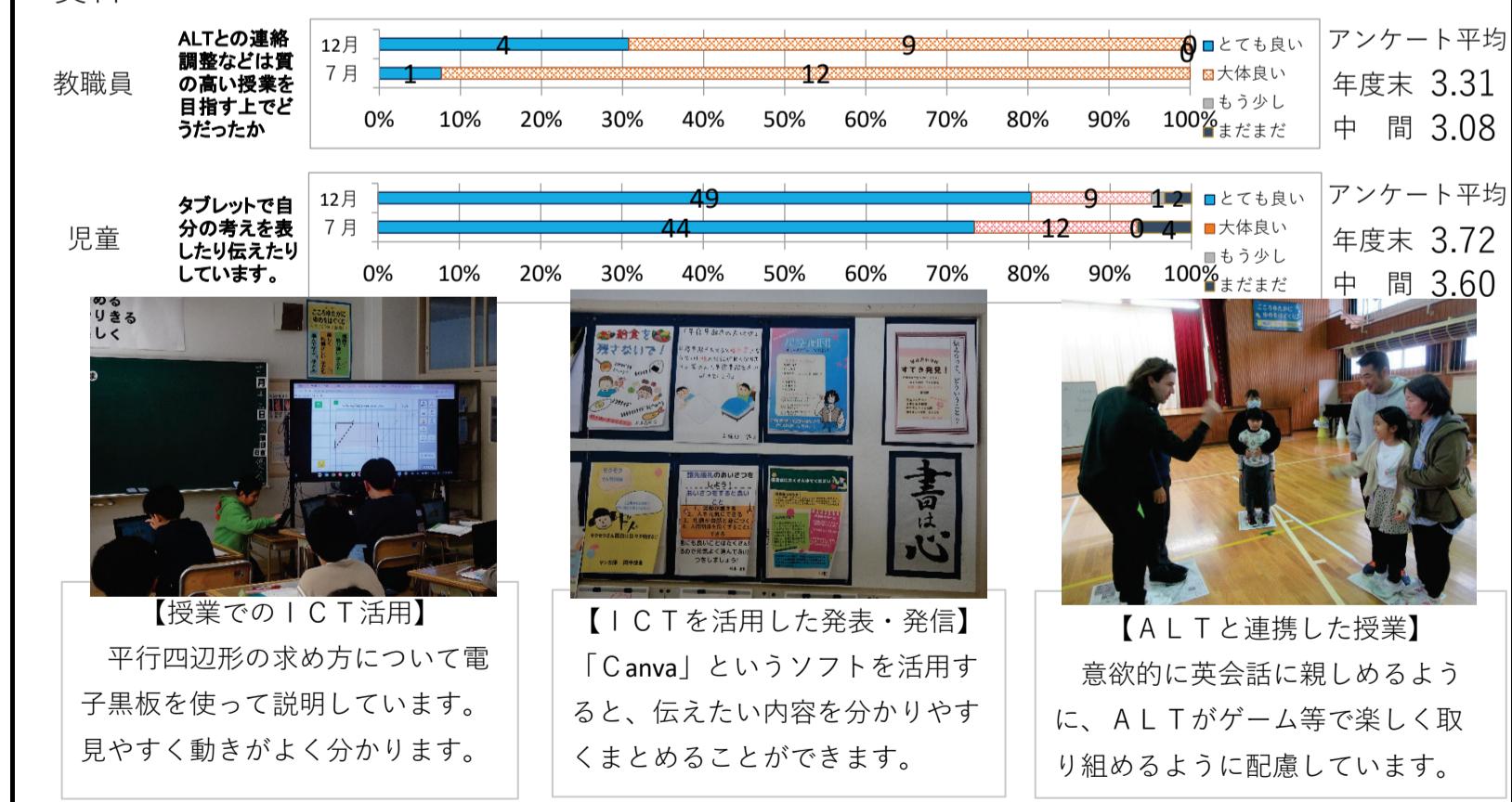
	【ふれあいかなやまスクール 米販売】 地域の田んぼを借りて収穫した米をセンター祭りの際に販売しました。パッケージや米の量を工夫しました。		【地域との連携】 市民センター主催事業の冬季世代交流ペターン大会に多くの児童が参加しました。地域の方々と関わりながら楽しみました。		【ふるさとかづの絆プラン】 大湯小との交流を進めました。写真の時は尾去沢小児童が大湯の果樹園に行ったりんごの収穫作業をしました。
---	--	--	---	---	--

基本方向3 「情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	タブレットは使用頻度が高く、使い方にも慣れている。外国語に関しては興味をもっているが進んで英語でのコミュニケーションをとることに難しさを感じている。	中間	3	中間	3	ICTの活用や3年生からの外国語の授業など、子どもたちが興味をもって取り組めている様子がうかがえる。ICTでの情報量が増えてすぐに答えやヒントが得やすい一方で、考えることやノートへの書き方が心配である。
年度末	外国語では学習した話形を生かして積極的にコミュニケーションをとっていた。ICTでは「Canva」というソフトを活用し、考えをまとめたり情報発信をしたりできた。	年度末	3	年度末	3	タブレットの活用により、漢字を書けなくなったり、わかりやすいノートのまとめ方ができなくなったりすることが心配である。書く力が高まっていく支援が必要である。また、海外からの移住者なども増えているので外国語授業でコミュニケーション力も高めてもらいたい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】タブレットは授業でよく活用されている。トラブルの時や授業で使い方説明などICT支援員がすぐ対応してくれているのありがたい。先生方には情報に関するお便りを発行して活用事例を伝えていく。また、子どもたちが家庭でタブレットを活用できるようにするために、2学期以降に持ち帰りを実施し、不具合がないか調べていく。外国語では、ALTの関わりが素晴らしく、子どもたちが楽しくコミュニケーションをとることができるように進めていただいている。今後も限られた時間内で効果的・効率的に学担と授業の打合せをして連携よく授業を組み立てていく。 【年度末評価】2学期に1年生のタブレットの持ち帰りを行い、家庭でのタブレット使用が全児童可能となった。今後は家庭でのタブレット使用について、いつどんなときに有効な取り組みができるのか他校の事例も参考にして進めていく。授業中のタブレット使用については「ここぞ」というときにタブレットを使い、ノートに書いてまとめる力も育成するように授業を組み立てていきたい。そのためにも情報担当教員から月に1回のお便りで、タブレット活用事例を紹介するようにして先生方の効果的な実践につなげていく。外国語では2学期もALTが子どもたちのよさや頑張りを褒め、学習意欲が高まっていくように進めていただいた。おかげで子どもたちは積極的に英語でのコミュニケーションをとり、英会話の楽しさを実感できた。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
1人1台端末を活用したGIGAスクール構想の推進と情報モラルの育成	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用方法の職員研修 ICTを活用した授業実践の充実 情報モラル教育の推進
外国語教育・国際理解教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ALTと連携した学習 外国語・外国語活動におけるTTの効果的な支援方法の提示 日常生活において英語を使用する機会の確保
学んだことを発信する能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した発表・発信等の表現力の育成 外国語を使ったやりとり・発表等の表現力の育成

<資料>



基本方向4 「豊かな心の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	上級生が下級生を思いやって行動する場面が多い。登校時に上級生が1年生の手をつないで歩いてきたり、6年生が1年生に朝の読み聞かせに行ったりしている。	中間	3	中間	4	登下校の際、上級生が下級生の面倒を見たり、声をかけたりといった姿が多く見られ、優しい心が育っていると感じる。学年関係なく、学校全体でみんなが仲良しという印象があるのは、学年を超えた活動が多くあるためだと思う。
年度末	11月に実施した「なかよし集会」では、各学級で楽しめるゲームを企画し、それを縦割り清掃班で巡っていくイベントを行った。ゲーム企画での工夫や清掃班で協力して楽しむことができた。	年度末	4	年度末	4	児童数が少ないからこそ強みで、全校児童が一緒に学校生活を送っている印象がある。上級生が下級生に対して優しく接し、思いやりの心が育っていてうれしく思う。さらに望むのは上下関係も意識して社会性も身に付けていってほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 アンケート調査から、学校では係・委員会など自分の役割を果たそうとしているが、家庭でのお手伝いが学校ほどできていないことが分かる。学校で身に付いたことを家庭でもできるように励ましていく。道徳教育推進については、担当者が教職員に対して学校全体で取り組むことを提示し、授業づくりに役立つ情報を発信していく。また、かなやま生活目標を子どもたちにしっかり周知することができなかったので、放送での呼びかけと掲示を活用して周知と意識付けをしていく。 【年度末評価】 12月の保護者アンケートから、家でもお手伝いをして自分の役割を果たしていることが分かる。集会などで学校評価アンケートの結果を児童にも公表し、意欲を高める支援ができた。道徳教育については道徳教育推進教師からの提案で「発問の吟味」「道徳コーナーの継続的な掲示」を共通実践するようにした。なかよし集会は、思いやりの心を育てるというねらいは達成するようにしてマンネリ化を防ぐようにしたい。例えばハロウィンパーティーを全校で行うなどの企画も考えられる。ケース会議についてはタイムリーに実施し、効果的な支援ができた。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
自己有用感と主体性を育む集団づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> hyperQ-Uを活用した学級づくり 活躍の場（学級活動・係や委員会活動・クラブ活動）の意図的設定や称揚
思いやりの心を育む道徳的実践の場の設定	<ul style="list-style-type: none"> 生活目標、生活のやくそく、新かなやま運動などを通した、基本的生活習慣の育成 道徳科において道徳的実践力を高める全校共通実践
様々な人たちとの交流を通した自他を大切にする心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 児童会による集会活動で、よりよい関わりを図る異学年交流 縦割り清掃班で役割を果たしたり、協力したりする活動 教育相談、なかよしアンケートの実施

<資料>

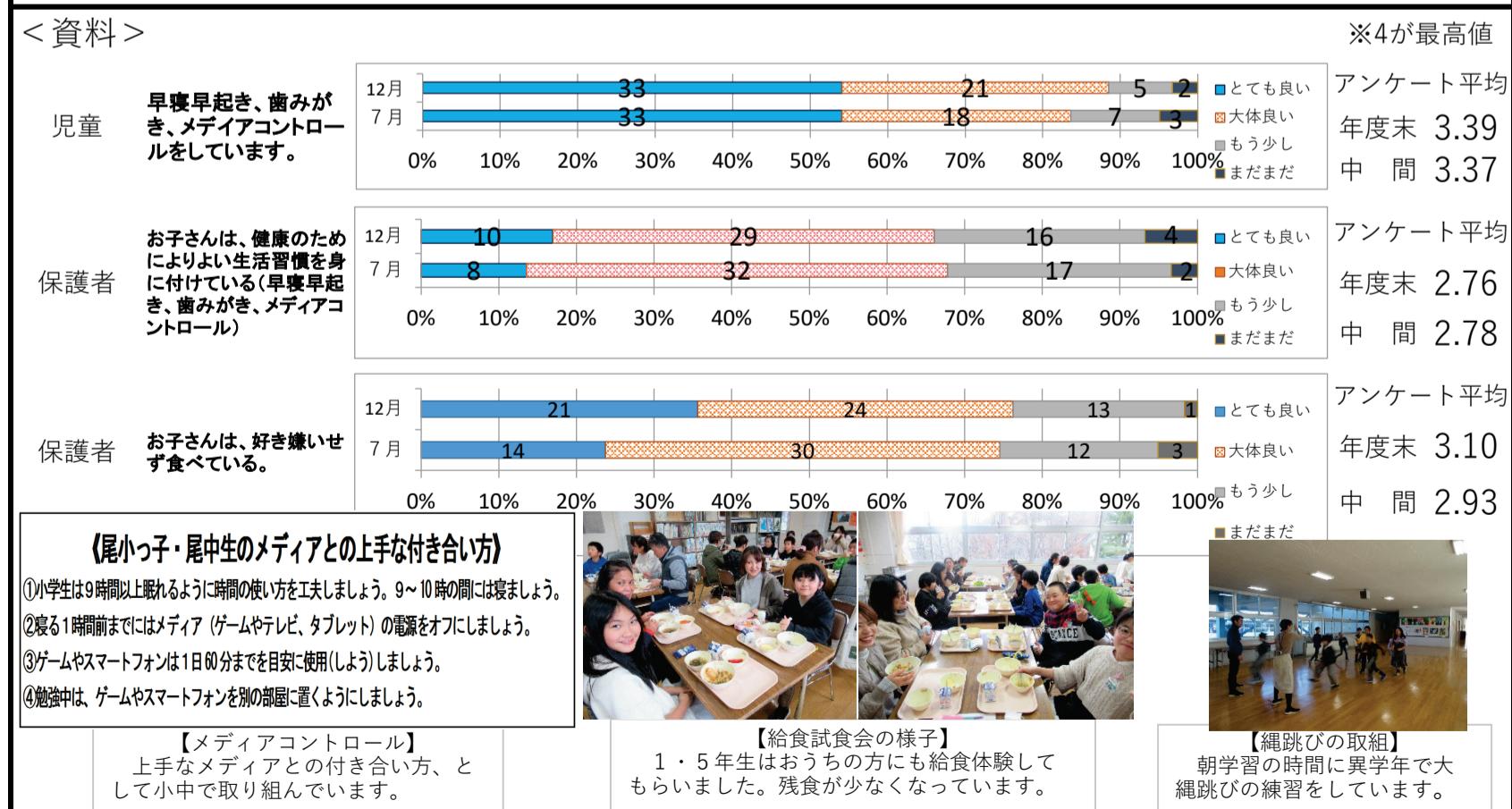
※4が最高値

児童	クラスや友達のために係・当番活動の仕事をがんばっています		アンケート平均		
			年度末	3.82	
保護者	お子さんは家の手伝いをよくしている		アンケート平均		
			中 間	2.92	
		<p>【なかよし集会】 縦割り清掃班で、各学年企画のゲームを巡って楽しみました。</p>			
		<p>【全校集会での委員会発表】 健康委員会がかぜ予防や縄跳びの取組について発表しました。</p>			
		<p>【P T A 授業参観での全校道徳】 道徳でペア学習や自分の考えを発表する様子を見てもらいました。</p>			

基本方向5 「健やかな体の育成」

児童生徒の状況		自己評価	外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	昨年度からの継続事項でメディア利用の時間が長い児童の健康が心配である。学校では体力向上のために徒歩での登校、朝運動、業間運動を計画的に行なうなど取組を行っている。	中間	3	中間	3
年度末	朝学習の時間に取り組んだ縄跳び(大縄)タイムでは異学年で活動することにより、心の交流や技の向上が見られた。いろいろと施策はしているが、メディアコントロールが継続した課題である。	年度末	3	年度末	3
自己評価の概要と学校の改善策					【中間評価】 メディアコントロールについて、今後も期間を決めて取組みを継続し、児童への指導や家庭への啓発を継続する。また「尾小っ子のためのメディアとの上手な付き合い方」を周知し、2学期中に全校に保健指導を行う。食育については、給食時間のマナーを身に付けるために教師自ら手本となり、指導を継続する。体力向上では、ねらいを明確にした朝運動(縄跳び、マラソン)を期間を決めて継続し、体を動かす時間を確保する。今年度は6月にマラソン大会を行い、熱中症対策や学校行事の兼ね合いも解消し、とてもよかったです。 【年度末評価】 メディアコントロールについては2学期中に予定していた保健指導をすることができなかったこともあり、現状の改善に至らなかった。3学期には養護教諭が各学級を回り、具体的な指導・支援をしていく。保護者アンケートから、好き嫌いせずに食べているという数値がよくなかった。学校では給食のマナーを守ることや自分に合った量を食べることを指導しているので、今後も継続したい。新体力テストでは握力が改善された。準備運動で握力を高める動きを数年継続しているのがよかったです。課題となるのは50m走だった。冬でもできる体力向上策として、個人縄跳びを奨励し、生活目標と合わせて全校児童が進んで取り組めるように支援していく。

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
よりよい生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイル調査結果の周知と保護者の啓発 ・各種検診結果による保健指導 ・保健集会、学校保健委員会の実施
望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・給食指導の充実 ・食育指導の実施
継続的な体力つくりの実践による体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・朝マラソン・縄跳びの実施 ・新体力テストの結果分析と活用 ・業間運動や縦割り班遊びの計画と実施

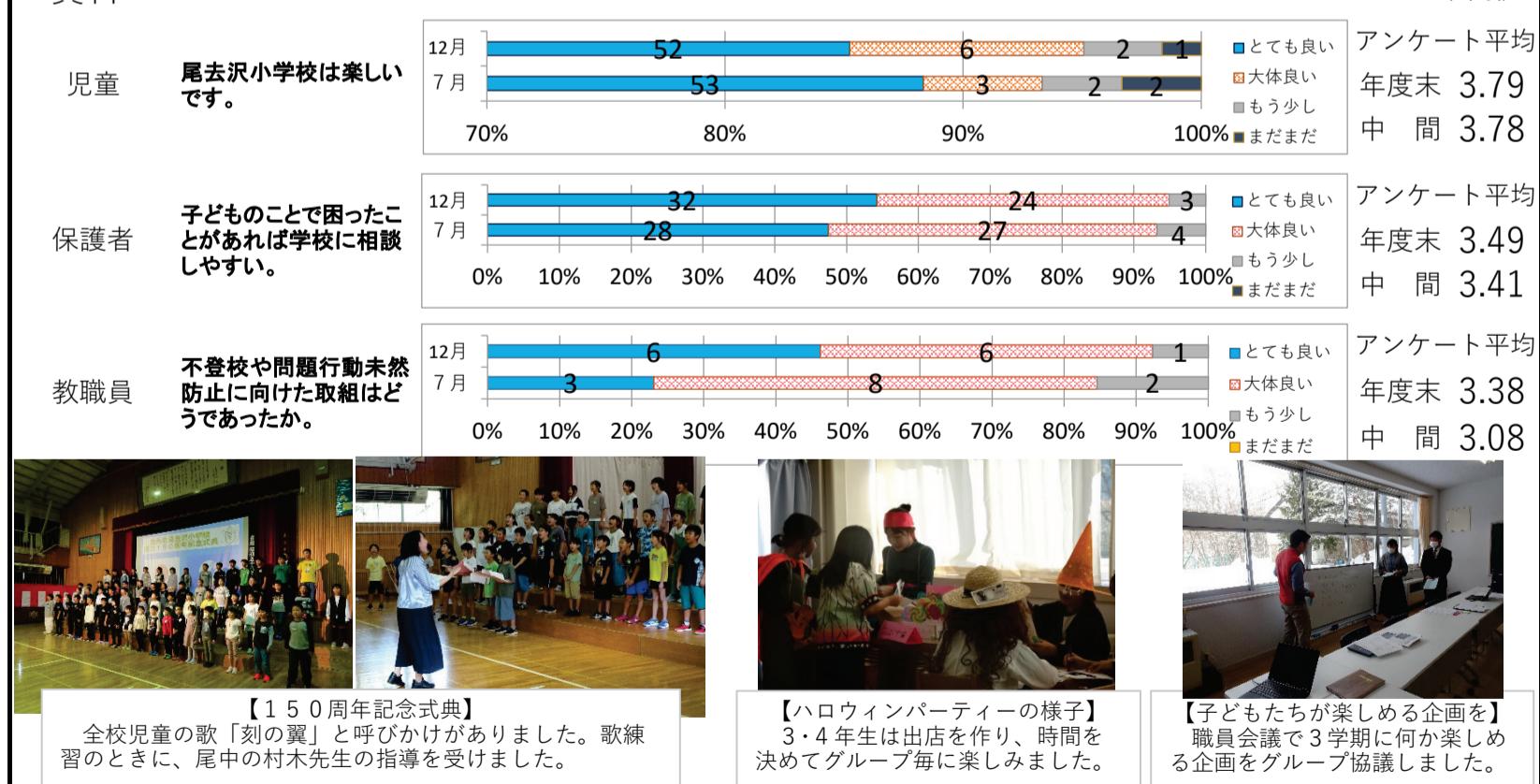


基本方向6 「子ども一人一人のニーズに応じた、きめ細かな教育の推進」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント	
年度初め	昨年度在籍していた職員がよく児童理解をしており、適切な支援を行っている。また、新職員もその様子を見たり、児童を語る会で情報を得たりして特別な支援が必要な子に対して適切に接している。	中間	3	中間	4	先生方が、一人一人の特性をとらえて対応してくれていることに感謝している。担任している子だけでなく、小学校児童全体を見てくられている印象がある。また、先生方が個別対応で支援してくれているのがありがたい。	
年度末	小規模校の強みを生かして全職員が61名の児童を見取っていくという意識をもって支援にあたることができた。アンケート結果から、尾去沢小が楽しい、と答える児童が多く、学校への相談がしやすい、と答える保護者も多い。	年度末	4	年度末	4	可能な限り関係機関と定期的な情報共有をする場をもち、困っている児童にかかわる人たちが効果的な支援をしていく体制をとってほしい。少人数のできめ細かく個別対応していただいているが、今後もいじめなどが無いか目を配っていってほしい。	
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 6月の尾去沢の児童を語る会では放課後児童クラブの職員や母子生活支援施設の職員も入り、詳しく児童について情報を得ることができた貴重な機会だった。校内職員で行うケース会議では毎週の児童を語る会で挙げられる児童についてこまめに対応策を協議する場をもつ。小中連携については小中合同避難訓練について中学校とも協議し、行うねらいや意図、実践につながる内容を吟味していきたい。新かなやま運動については、生活目標に位置付けしたり、夏休みの計画表や学校報に明記したりすることで定着が図られている。今後も継続していく。 【年度末評価】 ケース会議が適宜行われ、校内だけでなく関係機関とも連携して対応を考えることができた。輝き・健康プロジェクトとも連携して不登校への未然防止対策を行っていく。新かなやま運動については、長期休み中の家庭の協力を得る取組をし理解が図られるようにしたが、1年生とその保護者への啓蒙が課題である。1年生への学級指導を行うと共に、学校報でも取り組みについて伝えていく。また、3学期は保育園や中学校との確実な引継ぎや体験入学を行い、安心して進学できる準備を整えていく。						

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援委員会の充実 ・記録や協議による特別な支援を要する児童の理解と対応 ・就学前・小・中の情報の確実な引継ぎ
園・小・中の円滑な接続につながる効果的な連携	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中連携プロジェクトの各部の推進 ・小・中合同行事等の実施（運動会、学校保健委員会等）
不登校、問題行動等の未然防止のための取組と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・児童を語る会の実施により、全職員での共通理解 ・ケース会議の実施等でチームとしての対応

<資料>

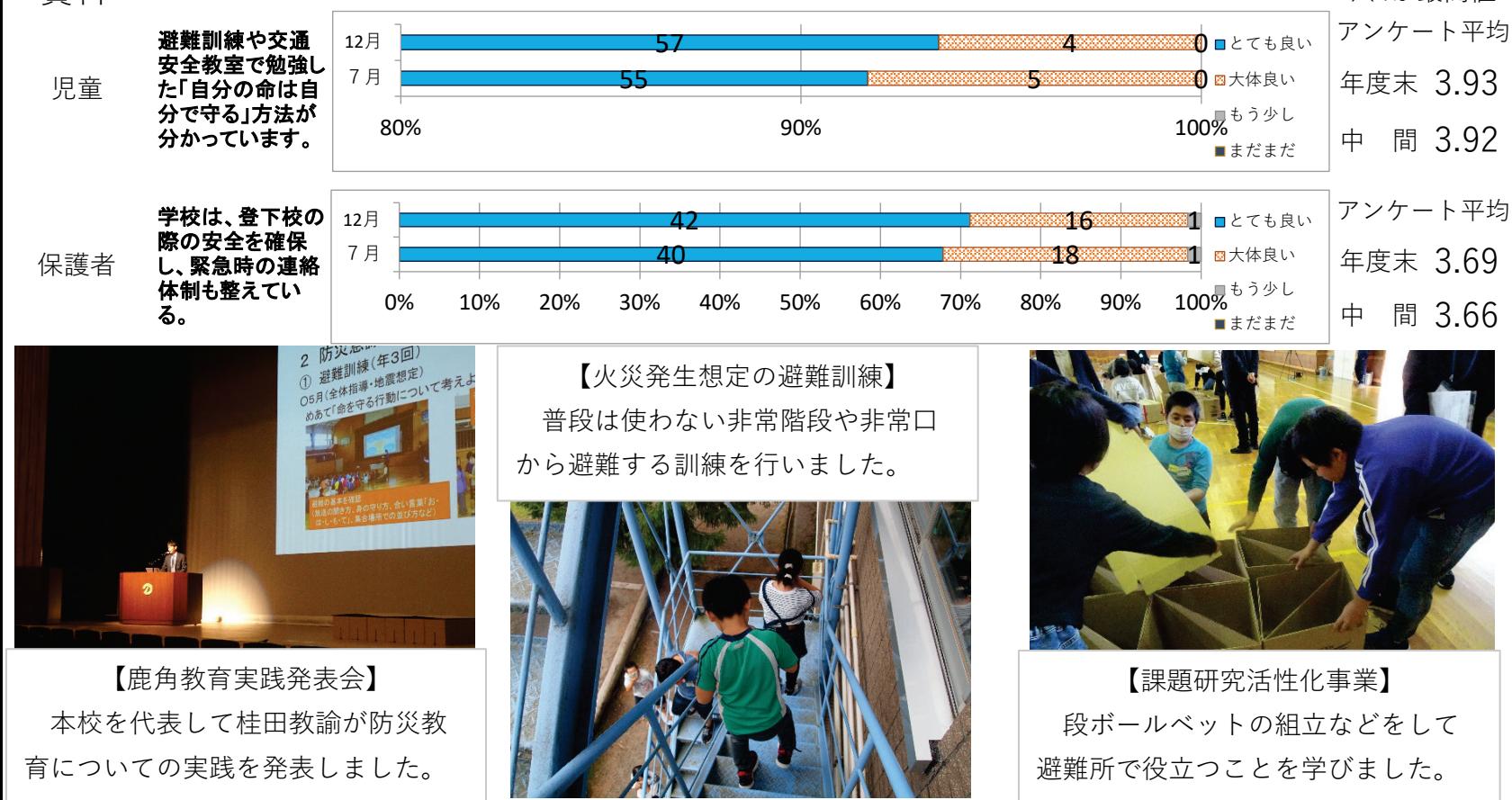


基本方向 7 「子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場づくり」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	校舎内外の環境整備がよい、という声を来客の方々からいただいている。昨年度から職員でローテーションしながらの校舎点検を実施し、複数の目で危険箇所を点検できている。	中間	3	中間	4	学校敷地の草刈りや通学路の整備がしっかりとされている。校舎内外の点検や避難訓練も行われている。害獣が出没した情報もこまめに発信され、それに伴う登校の変更など、状況に応じた素早い対応ができている。
年度末	児童のアンケート結果から防災意識が高いことが分かる。また、清掃班長を中心に校内の危険箇所点検も行っている。玄関前ロータリーの路面補修工事については保護者の要望に応えることができ、安全確保につながった。	年度末	4	年度末	4	集団登校や害獣対策など子どもたちの安全を考えた対策をとられていると感じる。課題として、登校と下校の通学路が違う場合、安全確保の面で心配なところがある。通学路の危険箇所が無いか、保護者に聞く取組をしてはどうか。また、街灯設置も進めてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策						<p>【中間評価】 熊出没の際、児童の登下校の安全確保対策として、警察や防犯協会の方々に巡回を依頼し、安全に登下校する指示をメールで流すなど対応が素早く的確にできた。避難訓練については、今後も自分事として危機意識を高められる内容を考え、実施していく。また、熟議で地域の方や保護者と一緒に防災について考えることができた。挙げられた内容について、できることから取り組んでいきたい。玄関前のロータリーについて、保護者からなんとかしてほしいというご意見をいただいた。予算化はされており、今年度内には補修の予定になっているので、学校報で周知した。また、補修までの間の事故防止について、児童・保護者に呼びかけていく。</p> <p>【年度末評価】 鹿角教育実践発表会で本校の防災教育について発表し、鹿角の小中学校に防災教育の効果的な実践を紹介することができた。3学期の避難訓練では火災と地震の複合的な場面において、今までの知識を活用して避難できるか訓練する予定である。通学路については冬でも熊出没している地域があることや、冬期間通学路にしていたところが暗いことを考慮し、夏季の通学路を年間通して通学するように各家庭に協力を求めた。また、保護者アンケートに、市街地から尾中までの歩道の防護柵が一部設置されていないことを記述していただいた。県の道路保全担当に確認し、来年度の通学路点検の時に要望することがいい、と助言していただいた。</p>

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
校舎・校地の日常的な点検・整備などによる安全・安心な環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回(学校安全日)の点検・報告 ・日常的な施設不備についての情報共有・対応 ・教育委員会への修繕の依頼
通学の安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室(歩行・自転車)での体験を重視した指導 ・集団登校時のあいさつ運動や管理職の見守り、下校指導ではSLGの協力 ・害獣出没時など緊急メールでの保護者への周知
各種避難訓練の計画的実施と安全計画（危機管理マニュアル）の改善と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の避難訓練(①地震、②火災、③総合※児童のみの判断) ・事故防止教室(不審者、交通事故、クマ被害等、実態に合わせる) ・訓練等後の反省と安全計画の見直し・改善

<資料>

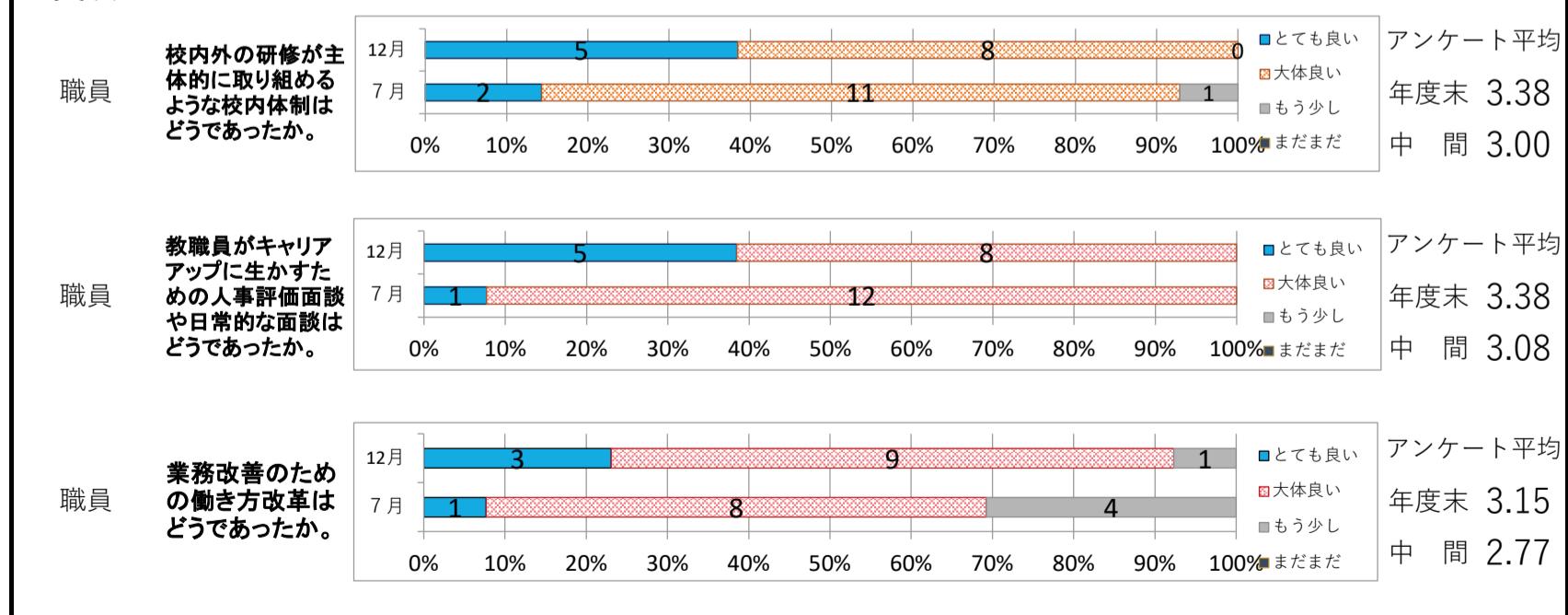


基本方向8 「教職員のモチベーションと資質の向上」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	教職員の研修意欲は高く校内授業研究会など、積極的に研修できる。働き方改革については、昨年度効果的なものを継続し、年度内でもすぐに取り組めることを共通理解の上進めていく。	中間	3	中間	3	どの授業も子どもたちが安心して学習している様子が見られる。雰囲気もよく、先生方との関係性のよさも見られた。様々な機会を通して研修を積み、子どもたちへ還元してほしい。
年度末	2学期は研修が予定通り行われた。校内授業研究会では授業改善に向けて活発な話し合いが行われた。働き方改革に向けては指導部や部活での負担に差が見られるので精選・工夫が必要。	年度末	3	年度末	3	教職員の1人1人の子どもに対する優しさを感じ、感謝している。また、働き方改革で退勤時刻など時間制限がある中、先生方に部活動や150周年記念行事の準備などで積極的に取り組んでもらい、ありがたかった。
自己評価の概要と学校の改善策						<p>【中間評価】 授業を見合う会、算数や国語の校内授業研究会、八幡平市の校長会視察などが2学期にある。研修推進についての実践の場として捉え、よい支援方法などを示し、実践のヒントとなるようにする。課題研究活性化事業では、研修内容の必要性を教職員に理解してもらうと共に、2学期の避難訓練や校内の危機管理研修との関連を図り、課題研究活性化事業の意義を高める。業務改善については、なかなか進まない状況だが、他校の業務改善例を紹介し、本校でも改善できることを職員会議で話し合っていく。</p> <p>【年度末評価】 1月に音楽の校内授業研があるので指導案検討や模擬授業なども合わせて授業改善に向けた研修が深まるようにしたい。人事評価については、校長だよりで評価のポイントを示し、最終実践の時期になる手前で先生方に声をかけて意識化できるようにする。業務の負担軽減に向けては校長との面談を通して業務についての聞き取りをし、軽減策を考え実施していく。また、余剰時数見直しにより先生方の効率のよい時間の使い方につながったので、3学期以降も感染症の状況を見て可能な限り削減していく。</p>

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
教職員の校内外研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 一人一研究授業、授業を見合う会、研究主任おすすめ授業、県センター講座など研修の奨励 課題活性化事業の実施と学校生活への還元
人事評価制度を活用した各キャリアに応じた研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 管理職と教職員全員との人事評価面談による、個々の目標と成果の明確化
業務改善計画による教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 業務内容の精選と効率化

<資料>



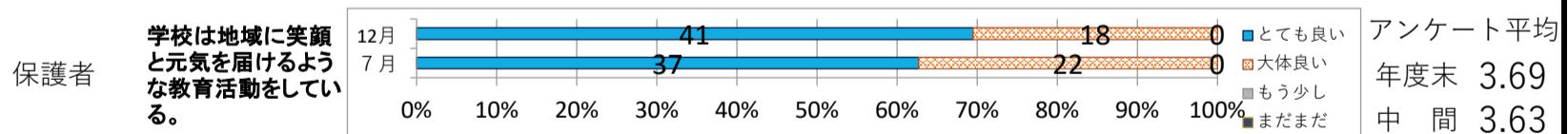
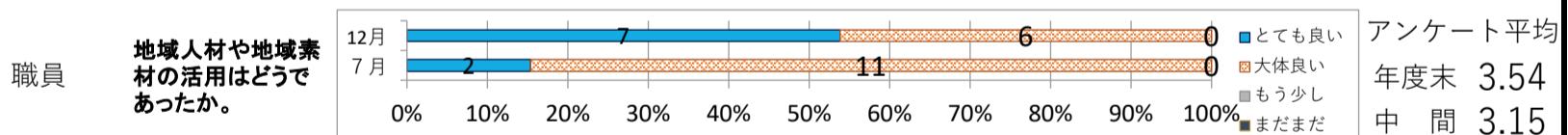
基本方向9 「地域とともに特色ある学校づくりの推進」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	尾去沢地区学校運営協議会が4年目となり、内容も充実してきている。尾去沢市民センターや学校支援ボランティア、民生児童委員など、地域の協力を得ることができている。	中間	3	中間	4	市民センターをはじめ、地域とのつながりが強い。地域の方々からの協力を得られていることがありがたい。地域全体で学校運営に携わる機会を作ってもらっている。子どもたちが自分の住む地域のよさを感じられる取組がなされている。
年度末	家庭科でミシンボランティアを4回依頼した。作業がはかどり、子どもたちも達成感を感じることができた。熟議では「防災～その時、私たちにできること～」として害獣対策などについて話し合った。防災について具体的にどんな行動ができるか、参加者が自分事として考えることができた。	年度末	4	年度末	4	150周年という節目の大きな行事を通して、学校・保護者・地域の良好な関係性を見ることができた。課題として、クラブ活動の指導者を地域の方にお願いしているが、活動の最初に学校から活動の意義や協力してほしいことをしっかり説明する場をもつとよい。また、活動の際は教職員の方々にも遠慮せずにどんどん指導に入ってほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 今年度も尾去沢中学校と連携して、尾去沢地区学校運営協議会を行い、その中の熟議では危機管理・獣害対策をテーマにして協議した。地域全体で子どもたちを見守っていく意識を高めることができた。尾去沢市民センターの事業では、森林教室や田植え体験など児童のふるさと・キャリア体験に協力をしていただいている。また、地域のスポーツ行事にも多くの児童が参加できるように配慮していただいた。学校支援地域ボランティアにおいてはクラブの講師、交通安全教室やプール清掃、体力テストの補助など、児童の活動を支えていただいている。2学期以降は職員室前に尾小生・尾中生の活躍場面の情報を掲示し、特色ある学校経営の発信をしていく。 【年度末評価】 今年度学校のホームページをリニューアルし、さらに見やすくした。今後もホームページの宣伝とデータのアップを計画的に進めていく。尾去沢市民センター主催事業が教育課程の中に位置付けられており、地域との連携が効果的に行われた。今後も改善しながら児童が地域とかかわりを深めていけるようにしたい。10月5日には150周年式典、学習発表会を開催した。子どもたちの様子を保護者や地域の皆様に見てもらつた。また、同日に記念祝賀会も開催した。PTAの皆様には各事業で実行委員として役割を果たしてもらい、多くの協力を得て事業の成功につなげることができた。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
学校運営協議会・学校評価・学校の説明機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の充実 熟議の内容や学校評価結果を生かした経営改善の推進 保護者・地域への積極的な情報発信
地域人材やボランティア、地域素材の積極的な活用	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材や地域素材の発掘と活用 尾去沢市民センターや学校支援ボランティアとの連携
特色ある学校経営の推進と評価	<ul style="list-style-type: none"> 地域に笑顔と元気を届ける取組 全員が学級担任という意識付け

<資料>

※4が最高値



【尾去沢市民センター主催事業】
稲刈り体験と昔遊び集会の様子です。総合的な学習や生活科の学習を生かしています。

【ミシンボランティア】
5・6年生の家庭科において、ボランティアの方々が子どもたちに指導してくださいました。

【150周年記念祝賀会】
保護者、地域の方々、教職員など多くの方が参加しました。懐かしい話に会場が盛り上がりいました。